

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会  
時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫  
両団体理事長 半 田 晴 久  
交通部会長 松 本 治 男  
専務理事 清 原 淳 平

交通部会のお知らせ(第278回)

日時 令和元年12月24日(火) 午後1時半～3時半  
場所 衆議院第二議員会館 地下1階 第8会議室  
千代田区永田町2-1-2

◆国会議事堂前駅(丸の内線・南北線)①番出口より下車3分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車2分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付協のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第8会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

- 議題
- 1、最近の交通情勢について想う  
挨拶 松本治男 交通部会長(元近畿管区警察局長)
  - 2、運転適性相談について
  - 3、運転免許証の運用について  
解説 警察庁交通企画課 西村仁崇課長補佐(警視)

報告 去る11月26日開催の第277回交通部会は、松本治男部会長が議長を務め行われました。

まず、松本部会長より、「最近の交通情勢について想う」と題して開会挨拶がありました。先日、警察OBの会合で、北村交通局長が「自動運転の法的課題」と題して講演を行った。その要旨を参考までに述べると、来年度に緊急時には人間が運転を交代する自動運転レベル3を導入する予定であるが、大きな変化はその5年後の導入が目標とされている完全自動運転の導入である。認知・予測・判断・制御すべてにおいて人間を上回る安全基準を満たすこと、国際基準を満たすことは最低条件である。事故責任については、民事は所有者が一義的責任を負う

ことになるが、刑事責任が難しい。特に、自動運転システムは正常に作動しているのに、歩行者が異常行動をとって事故が発生した場合にも運転席に座っている人間が処罰されるのかは議論の余地がある。

次に、警察庁交通局交通企画課西村仁崇課長補佐(警視)より、「運転適性相談」について、解説がありました。各県警の運転適性相談窓口では、高齢者や家族からの相談を受け付けているが、内閣府の統計では、この窓口について「知らなかった」と回答した者が7割と、浸透が十分でないことが明らかとなった。そこで、窓口の周知のため、全国共通の覚えやすいダイヤル番号「#8080」を設け、そこから各県警の窓口につながる仕組みを導入した。引き続き、更なる周知を図っている。

次に、「12月に増加する傾向のある死亡事故の態様」について解説がありました。12月は、1年の中でも死者数が最も多くなる月である。特に、自動車が第一当事者(いわゆる加害者)となる事故は、早朝の出勤時間帯が2倍(以下全て11月との比較)、昼間の業務目的が35%増、昼間の職業運転が4割増、夜間の職業運転が35%増。歩行者が第二当事者(被害者)となる事故は、早朝の散歩が1.7倍、昼間の買い物が1.6倍、夜中の飲食が1.3倍増加する。自動車事故については、事業者への注意喚起、歩行者については、横断歩道外横断や飛び出し、飲酒運転をしないよう啓発を行うとともに、反射材の普及により、本年も昨年より死亡事故減少を達成できるよう努める。

この後、委員一同にて盛んな意見交換があり、以下のような意見が出された。◎仮に日本で自動運転の実験中に死者が出たら、大バッシングを受け、中止に追い込まれるかもしれない。これがアメリカや中国なら死者が出ても構わず開発を続けるであろう。自動運転システムの開発競争はかくも熾烈である。◎死亡事故減少に最も貢献しているのは自動ブレーキであろう。さらに減らすにはどうするかと考えた結果が自動運転システムだ。

★ 資料代 会員500円  
次回、12月24日(火)の交通部会(衆2)に

出・欠 (いずれかに○印)

事務局宛FAX 03-3507-8587

御芳名 \_\_\_\_\_

貴方様のFAX \_\_\_\_\_ 電話 \_\_\_\_\_

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(非会員の会費は二千元となります。)